

平成16年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 第四部・芸術系(音楽)教育講座

氏 名 村澤 由利子

プロジェクトの名称	音楽科の授業において教員採用試験における弾き歌い等での、ピアノ伴奏に際して必要とされる読譜力を養成する教材の開発	配 分 予算額	1,100,000 円
プロジェクトの概要	本学は、学校教育に関する実践的・理論的な研究を行う「教育のための大学」であり、教育現場における課題解決や、各教科の教材を含む実践的な研究を行う使命を持っている。 平成14年度教育研究基盤校費「音楽科の授業において、ピアノ伴奏に際して必要とされる読譜力を養成する方法および教材の研究」の成果を発展させ、平成16年度のプロジェクト経費により、「小学校教員養成のためのピアノ教則本(初級)」を印刷し、完成することが出来た。 この教則本は教員採用試験と密接な関係がある「初等音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業に使用出来るのみならず、種々のピアノの授業でも、大学院生を含む初歩のピアノ奏者のために使用できるように考慮した。 またこれまで、開学以来続いている、鳴門教育大学の初等課程の学生のために開講されている「初等音楽Ⅰ・Ⅱ」等の授業で、採用試験に向けての準備を指導してきたが、初歩の学生のための適当な教則本が見あたらなかった。 そのために、今回これまでの経験を生かし、本大学独自の教則本を作成することを目的として試行錯誤し、初めてピアノにふれる学生も多いことから、導入としてピアノの構造、ピアノを弾く際の姿勢、椅子の高さの調節の仕方、手の形など、ピアノの基本的な説明から取り入れることにした。次に読譜力を身に付けるために、ブラインドタッチの練習を始め、全音楽譜出版社と音楽之友社の楽譜を参考に、初歩のピアノ練習曲やピアノ伴奏教材を選んだ。 今回は学生に無料配布するために200部を印刷し、ピアノの授業で使用することとした。すでに初等音楽受講生以外でも、この教則本を目にした学生から多数希望の申し出がある。		
成果の概要	本プロジェクトは大学生の初心者を対象としたピアノ伴奏教材の開発・作成を行い、学校現場で音楽科の授業を行う際のピアノ伴奏や、教員採用試験の際の「ひきうたい」においても力を発揮できるように意図している 内容は、 Ⅰ ピアノ基礎練習 ・ピアノの構造、初心者がピアノに向かう際の基本的な動作、姿勢など ・ペダルの踏み方や、椅子の高さの調節の仕方 ・ピアノを弾く上で重要な両手の指と指番号の関係 ・手の指の形と弾き方などの注意 Ⅱ ブラインドタッチの練習 楽譜から目を離して演奏することを可能にする能力を身につけることを目的とする。 ・左右の指と指番号を直感的につかむ練習 ・ブラインドタッチの基本となる鍵盤上の音程(2,3,4度)の感覚をつかむ ・音程の跳躍や、音域の拡大に対応するためのポジションの移動や腕の感覚をつかむ Ⅲ 初歩のピアノ練習 これまでの採用試験等でも多く使用されてきた『バイエルピアノ教則本』より選び、初歩から段階を追って少しずつ進歩できるよう、種々のピアノの演奏法についてマスターする。 Ⅳ ピアノ伴奏教材 【新版】「初等音楽教育法(小学校教員養成課程)」より1年生から6年生までの共通教材の中から、それぞれ、リズム、和声(和音)、メロディーのレガート奏法、アルペジオの奏法などを含む「ひきうたい」の練習のための曲を選び、その音楽性や曲作り、またそれぞれの曲の個性をつかんで演奏するための練習法を自学自習により会得する 以上のように「初等音楽Ⅰ・Ⅱ」やピアノの授業においてこの教則本を使用することはもちろん、基礎練習からブラインドタッチ、初歩のピアノ練習曲、伴奏教材を練習することにより、学生の自学自習の際にも使用することが可能なように解説を含め、また進度に無理なく応じるなどの配慮がなされている。		